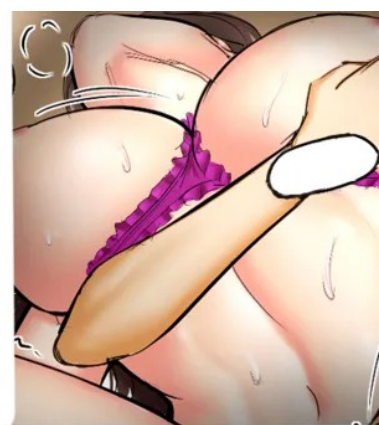
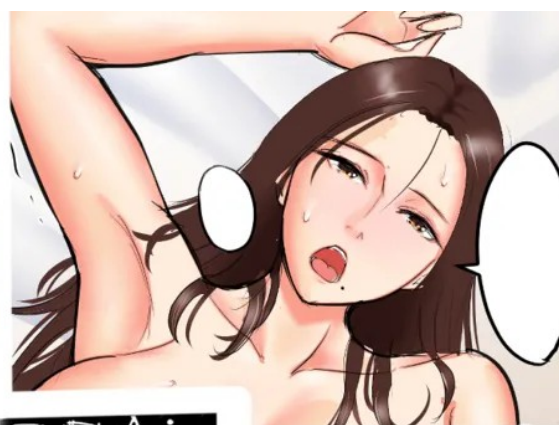
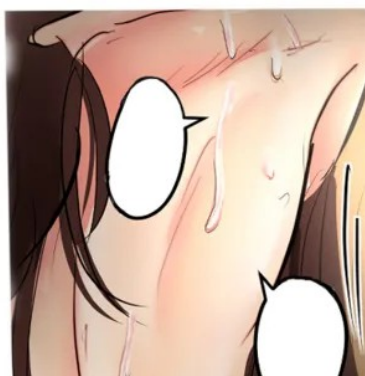




友母願望2

すぴか屋



あの後――

結衣さんっ
俺も
お願いします

お、俺もっ！

お願いしますっ

お前らさあ……

はぁ…

おばさんだぞ
36の

お願いします

ちょっと
待って

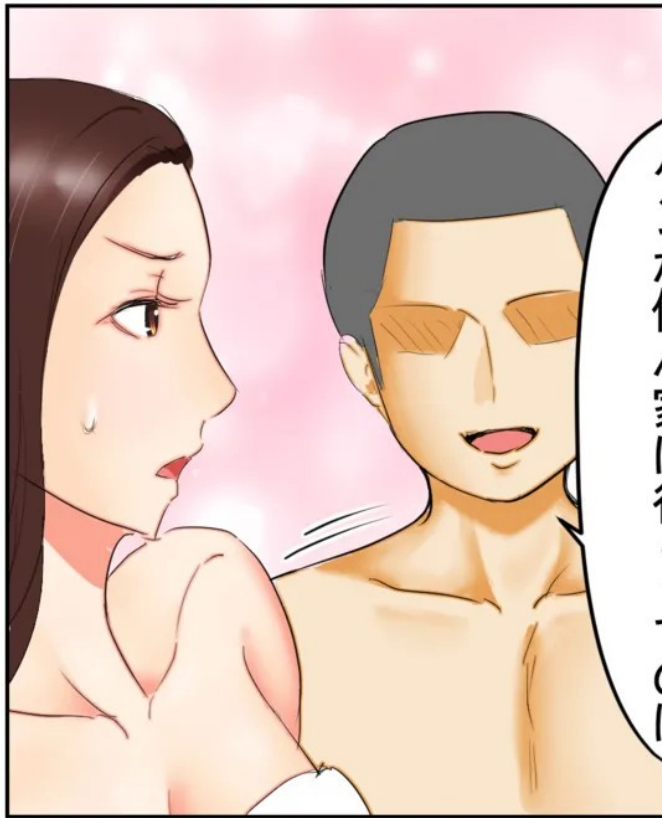
やめて

お願いします

聞いてない



お前に結衣さんの
何がわんだよ



しばらく
ケンが俺ん家に行くってのは



提案
なんだけどさ

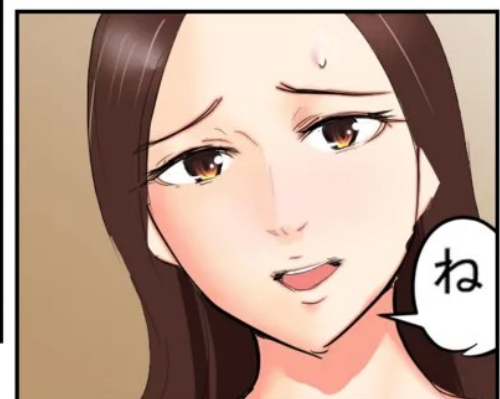


えっ
ケン君...

しばらく
そーする



それはちよつと
.....



ね

ケン君が出ていって
気が動転して
いたのもあった

あなた達も
帰りなさい

お願いします
収まらないっす
ぼ、僕も…

彼らの気持ちに
押されるままに

結衣さんっ

俺もしてよ

ふう
はあ

ボクのを
結衣さんが…

ふう
うっ

こっち見て

くっ
うおっ

俺は？

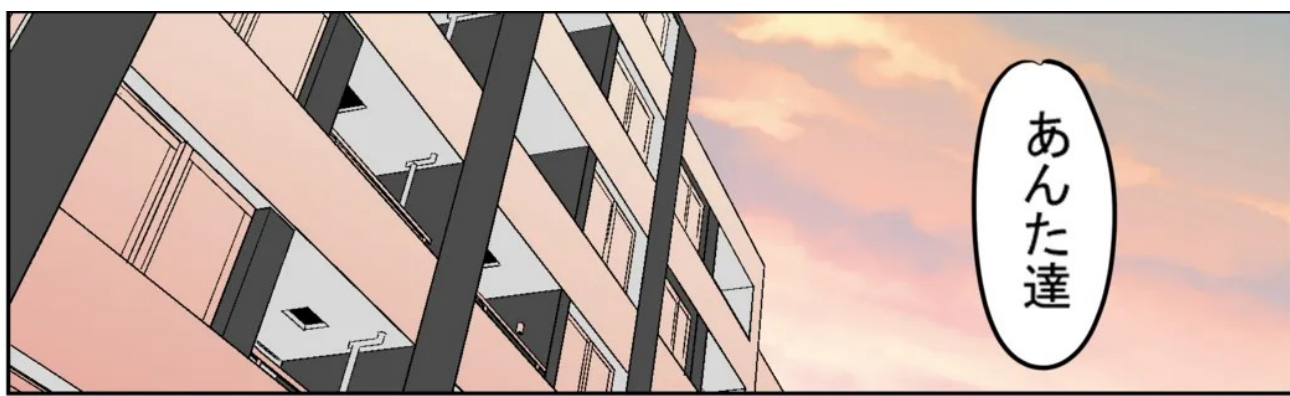
あっ
射精ますっ

うあっ

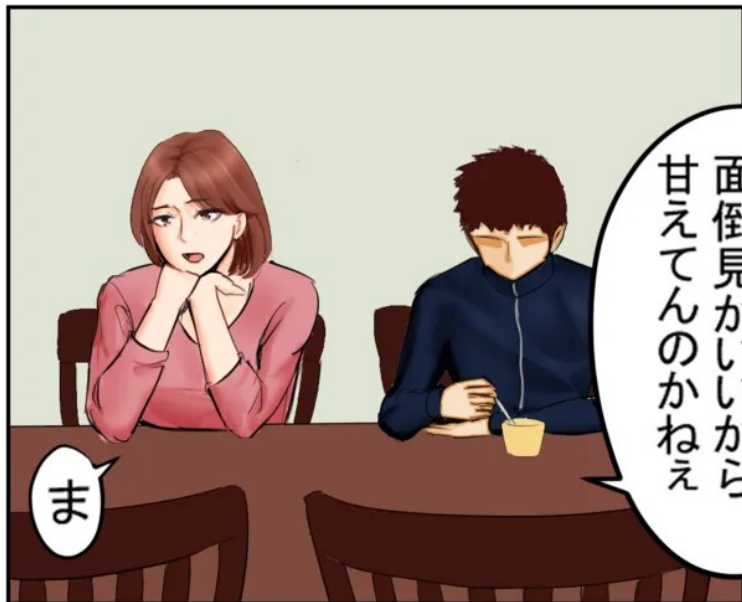
結衣さんっ

これで済まないことも
わかっていた—





あんだ達



ま

結衣は昔から
面倒見がいいから
甘えてんのかねえ



入れ替わりで住むって
変わったことしてるのね

そうっすね…



言えないよ

あのバカが
迷惑かけて
ないならそれで
いいんだけど



いいよ

一週間位いいですか？



翌日――

よお
そっちはどうよ

別になにも…

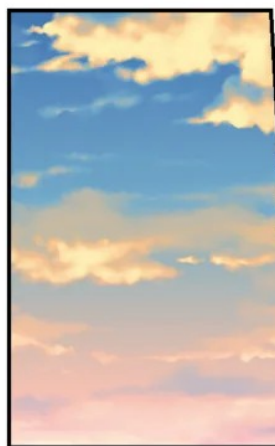
おふくろヒマそーだから
相手してくれて
助かるわ

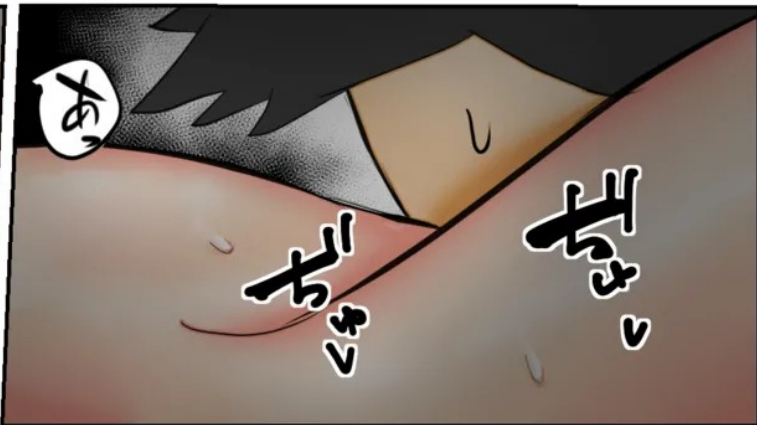
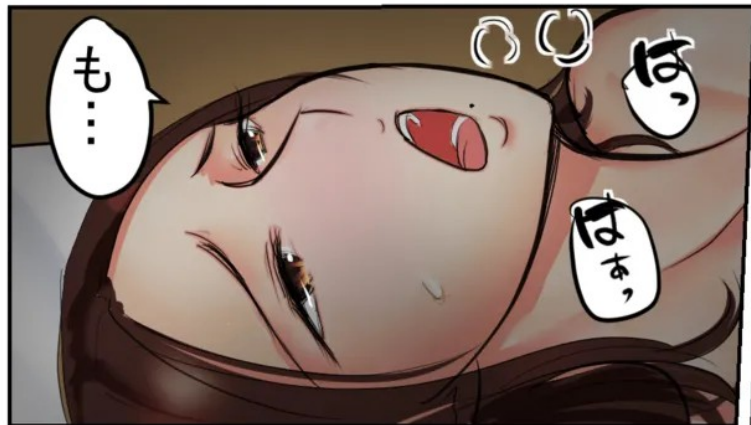
料理美味しかったよ

今エロイ事考えてたろ？

違う

俺ア お前の事どうこう
言えねーからノータッチだ













[illegible]

はっ...っああア
ああ...っっ!

イツ...ク...!
駄目...駄目ッ
イっちゃう!

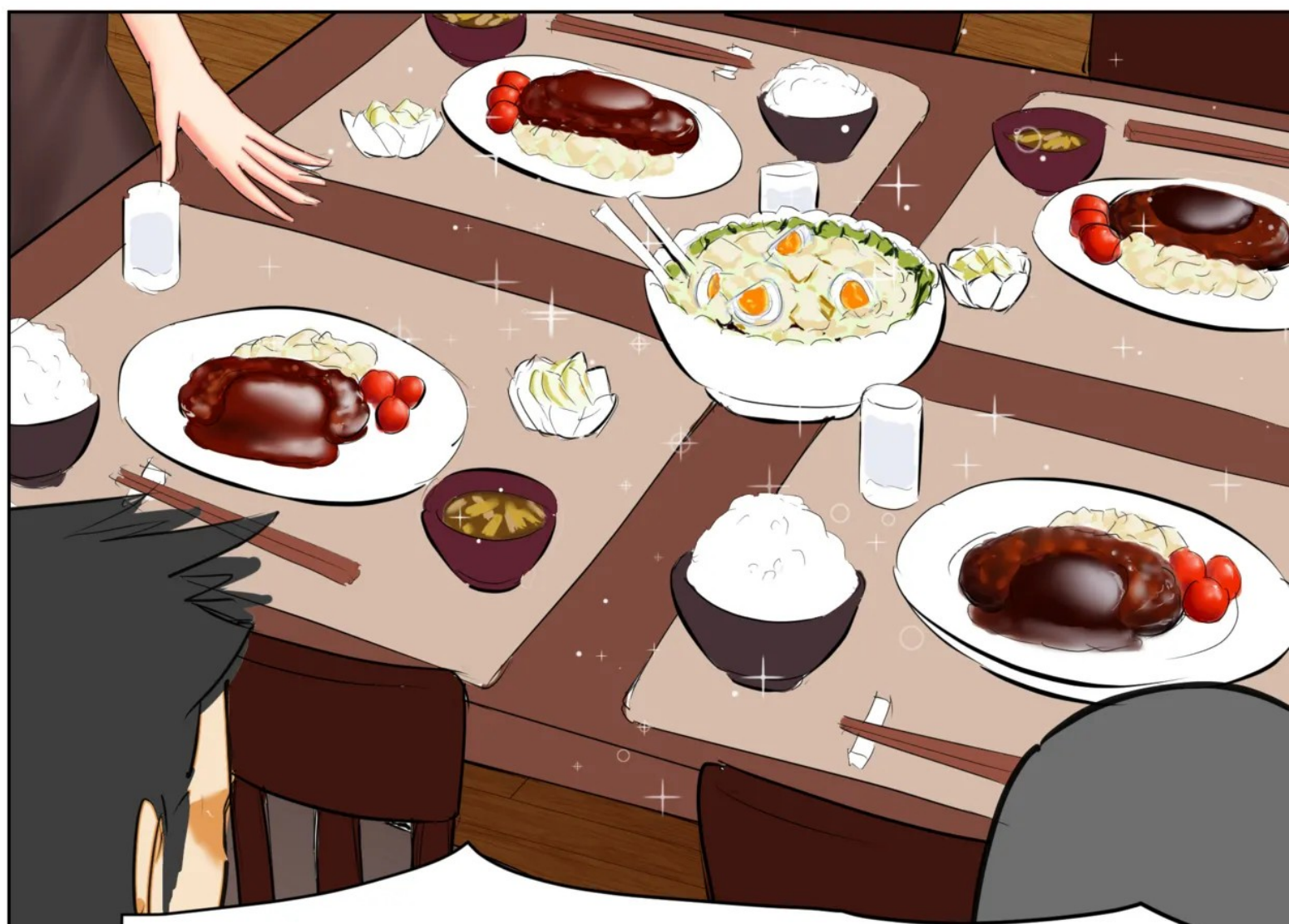
やっ
や

あゝあゝ
とまんねえ

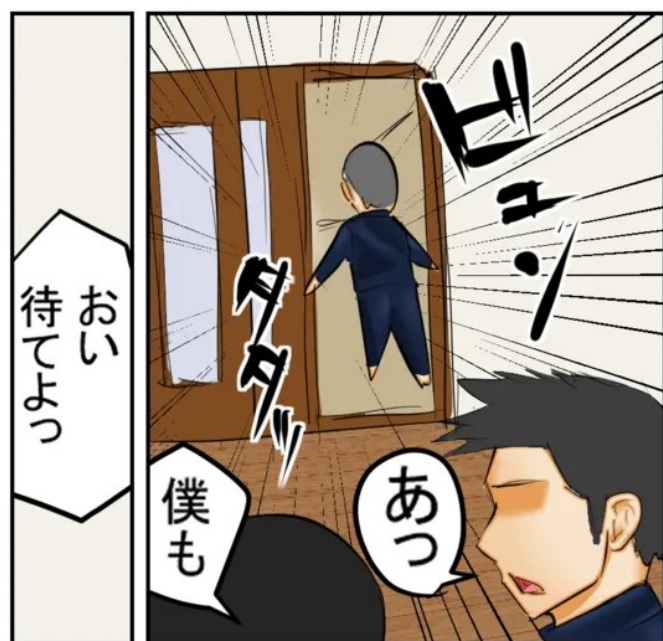
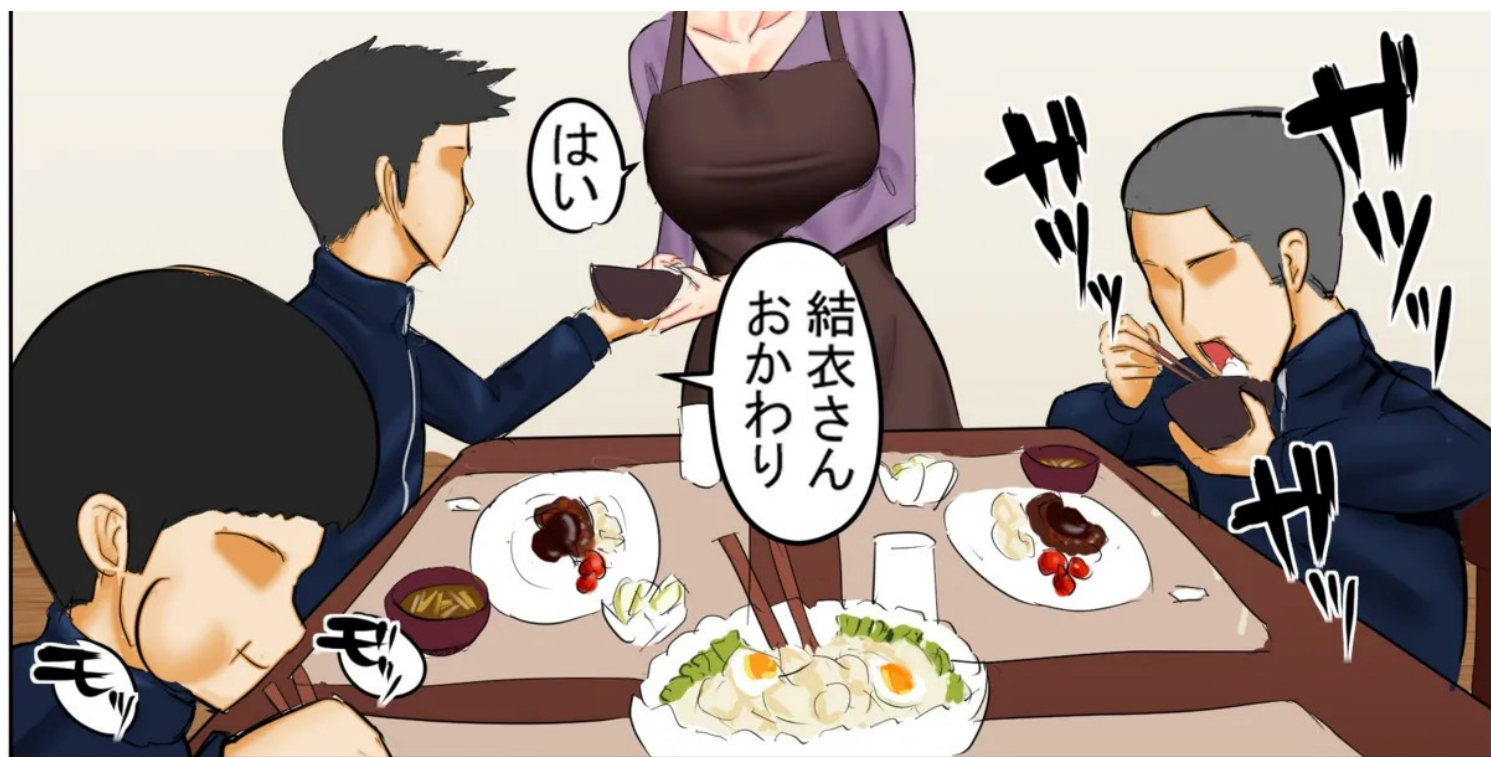
あゝあゝ
とまんねえ

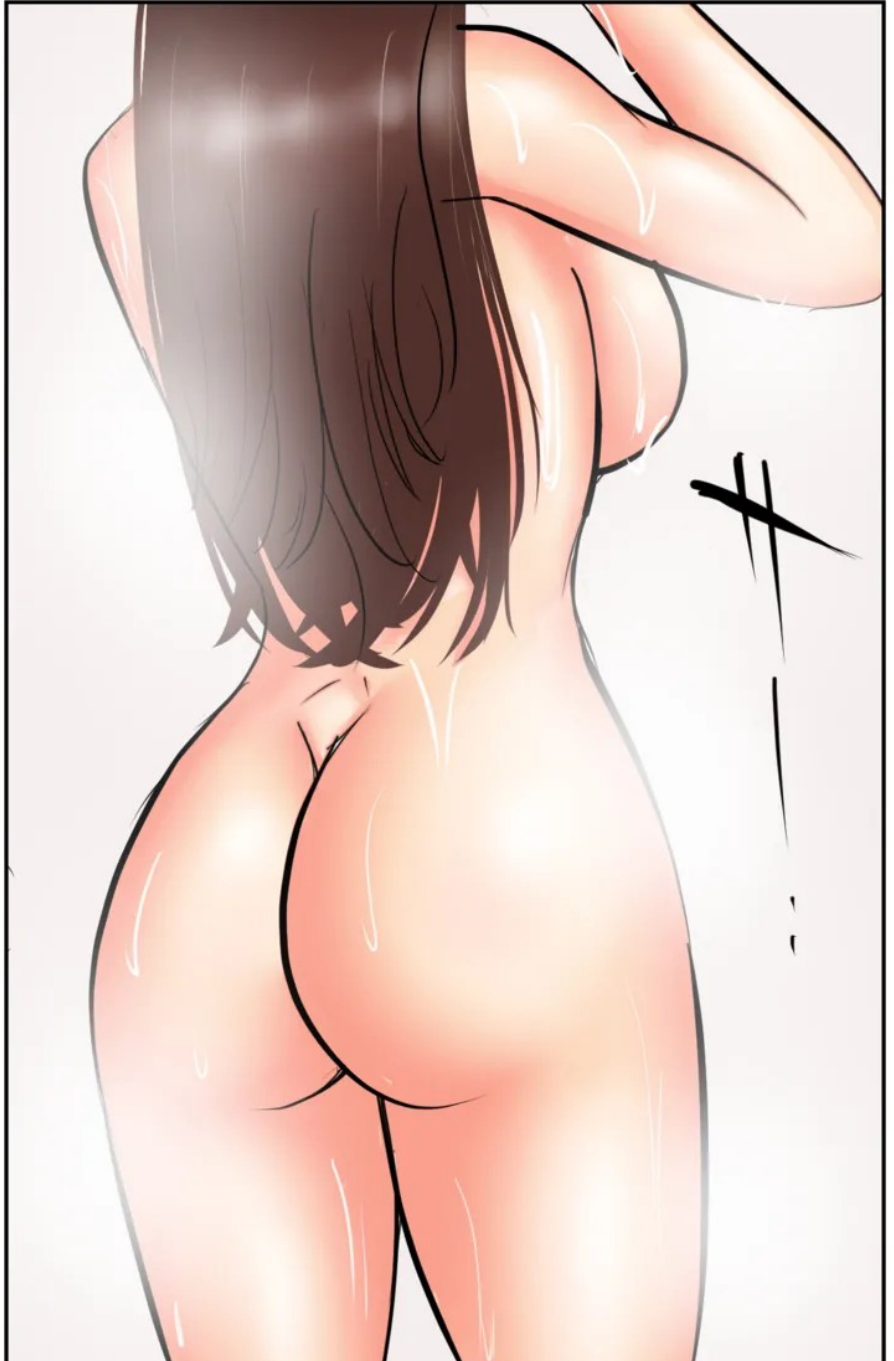
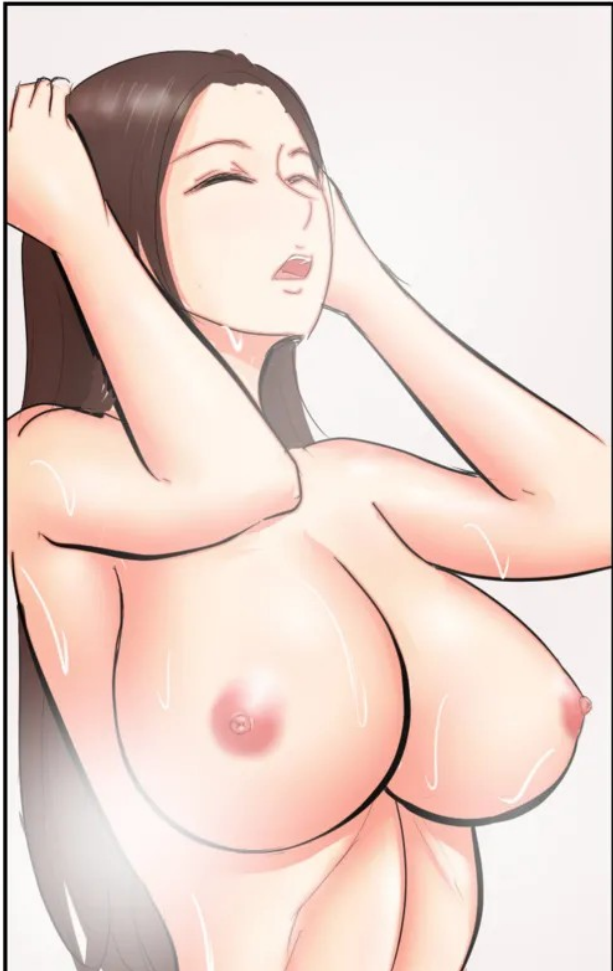
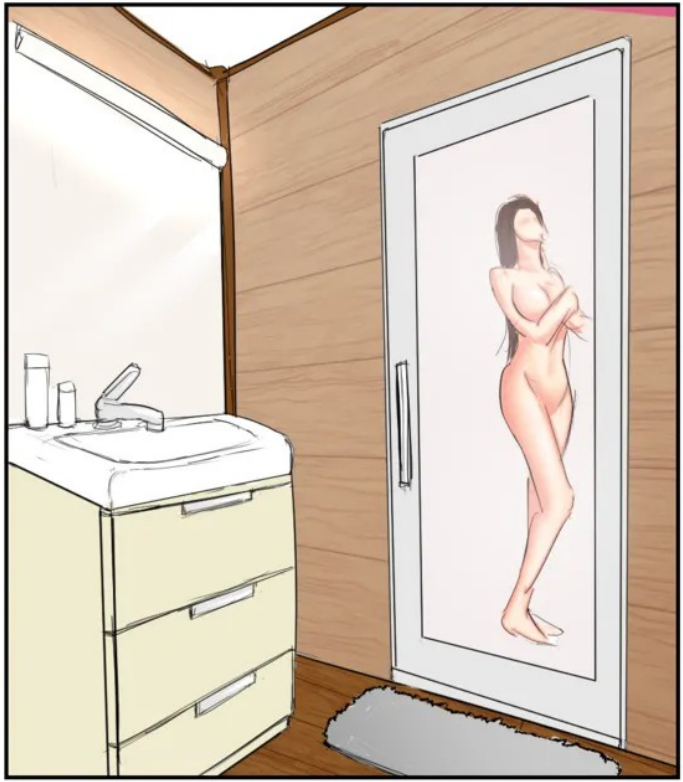
あ...あゝとまんねえ

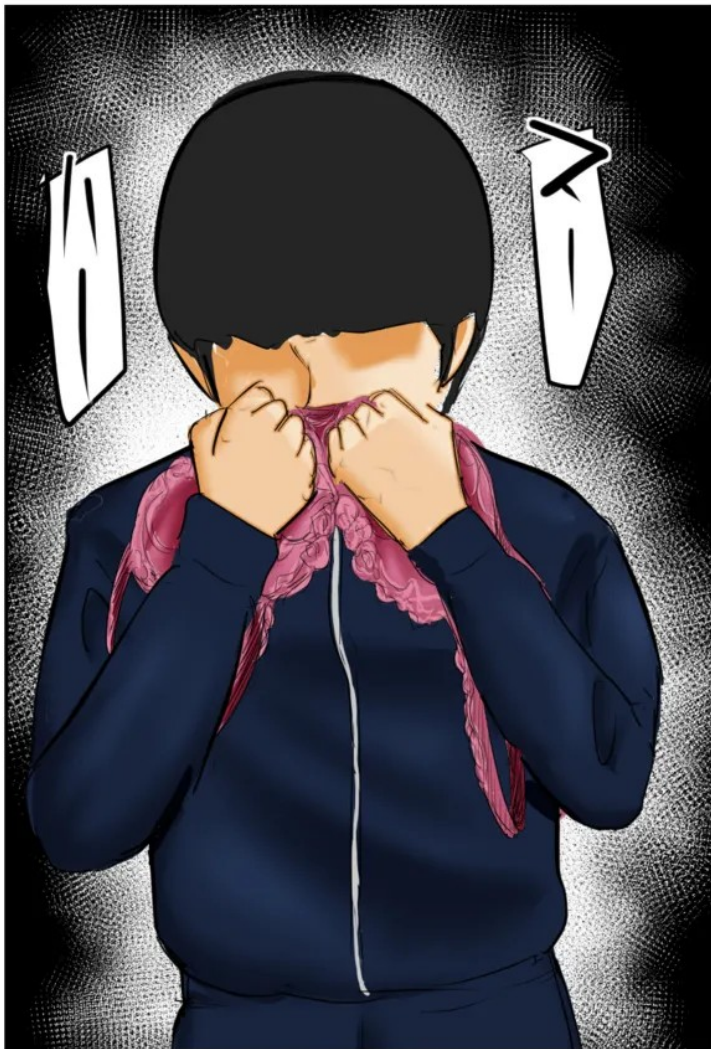
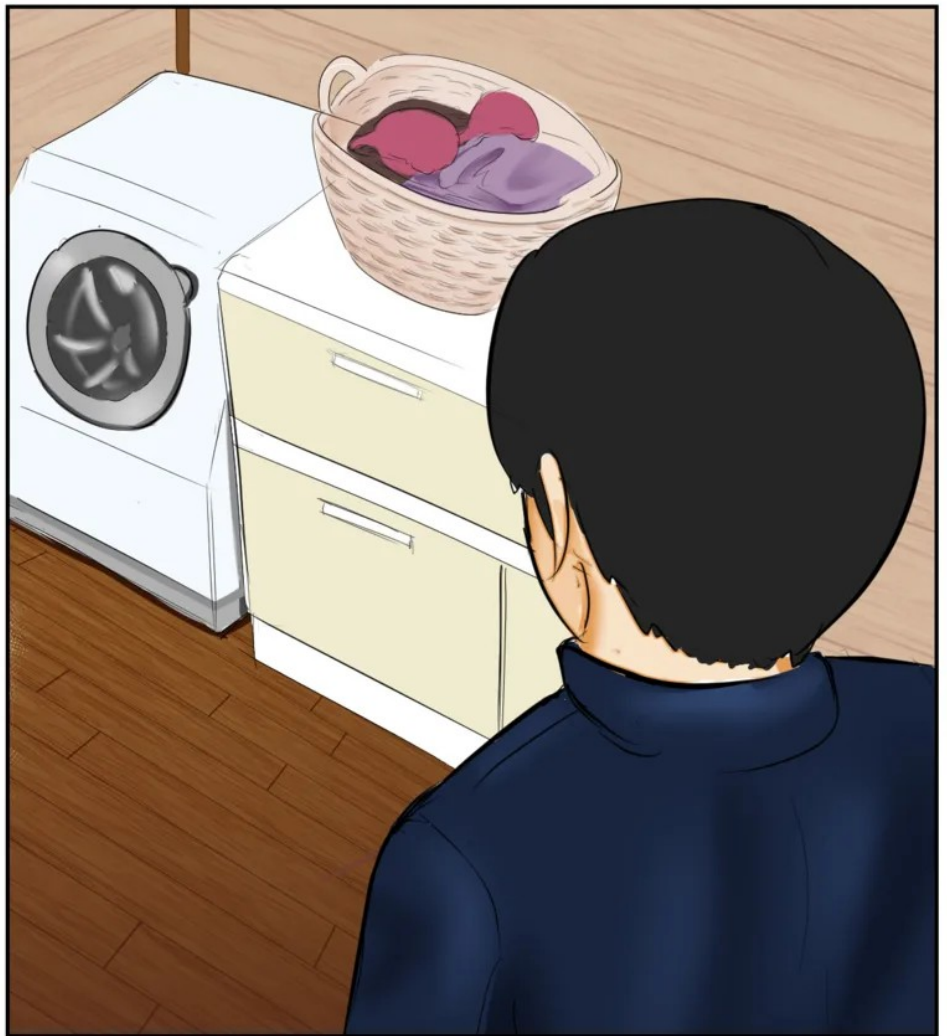
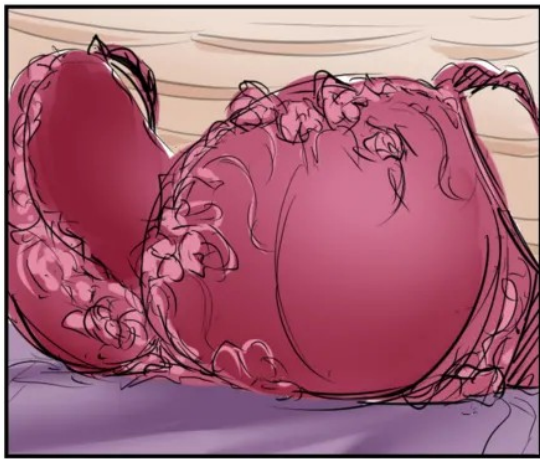




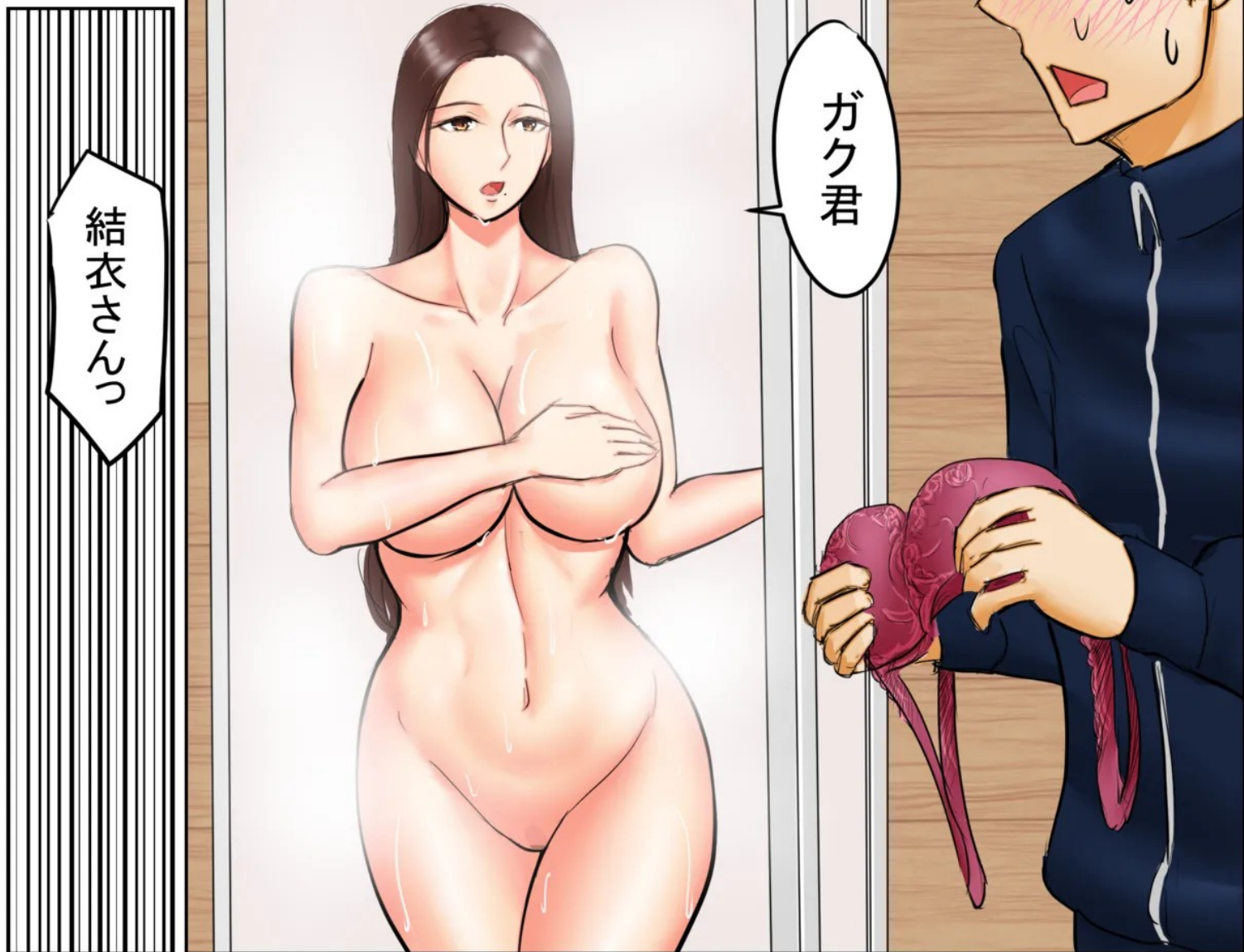
うおおおおっ



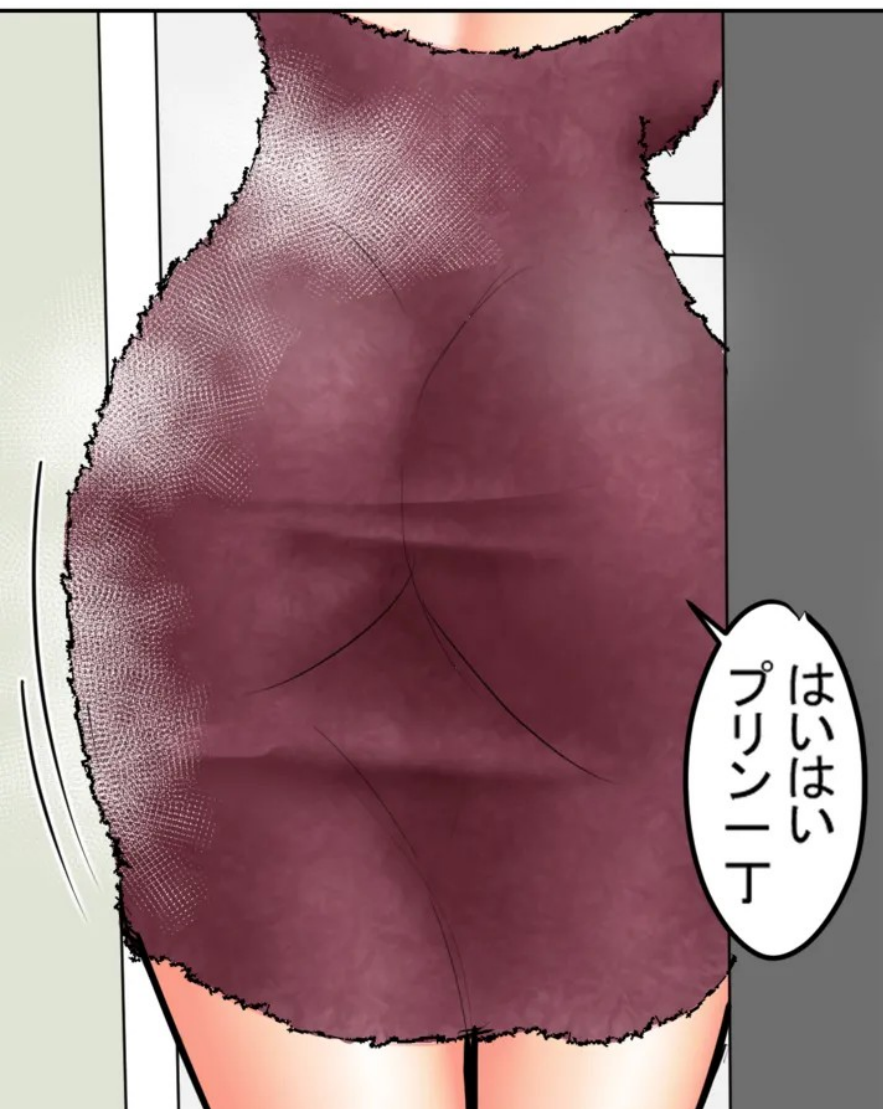
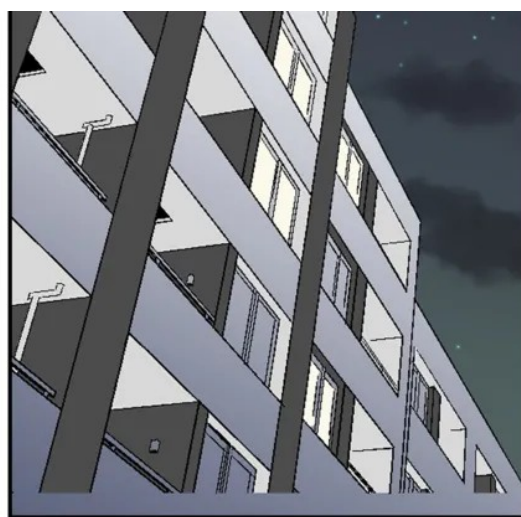


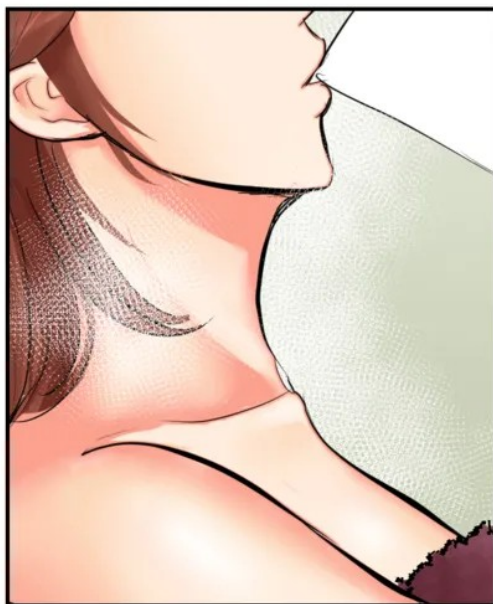
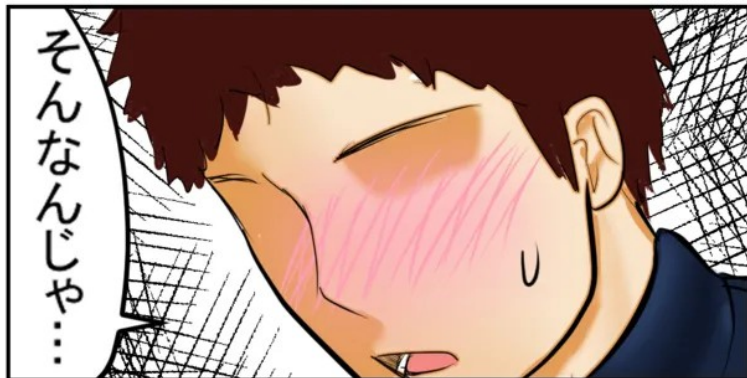
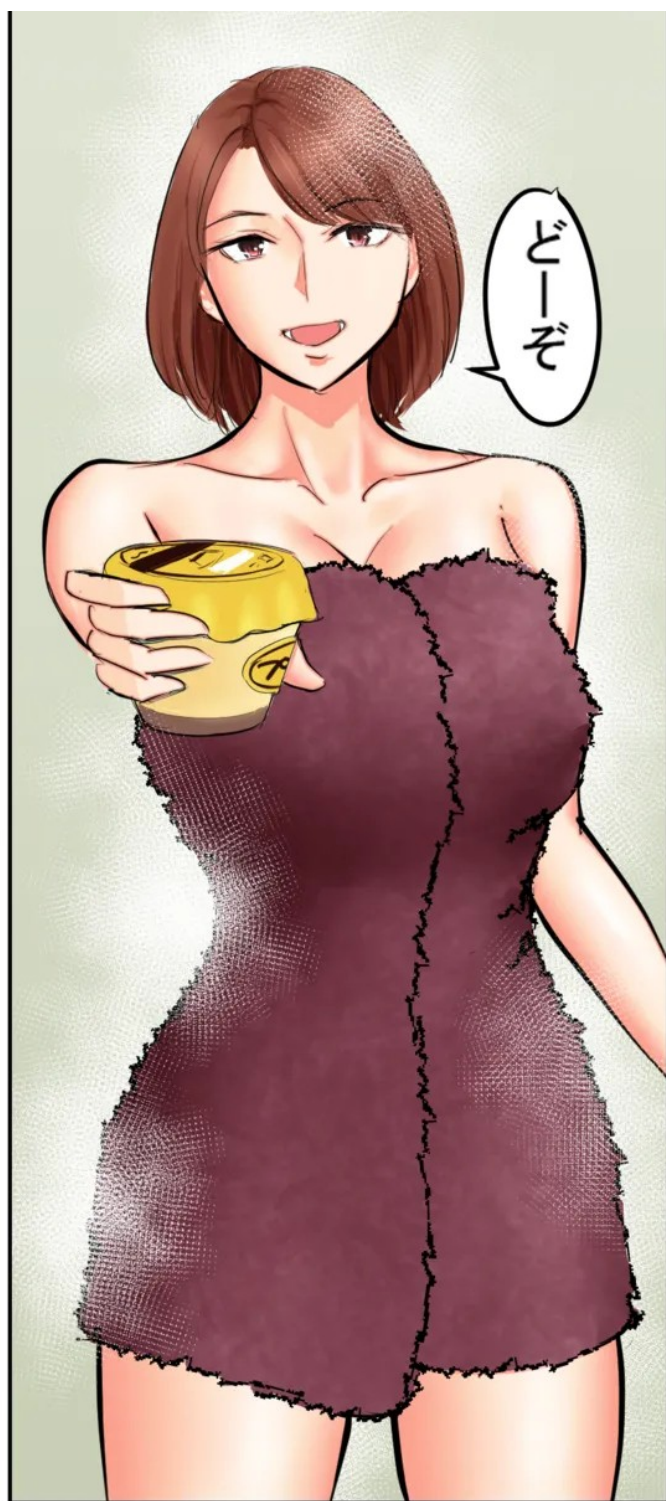
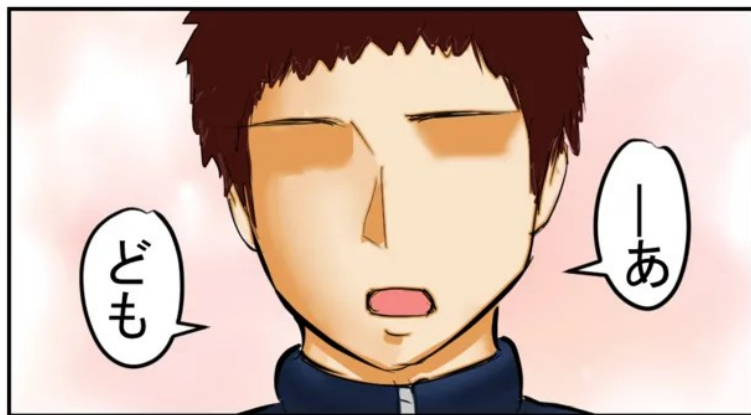


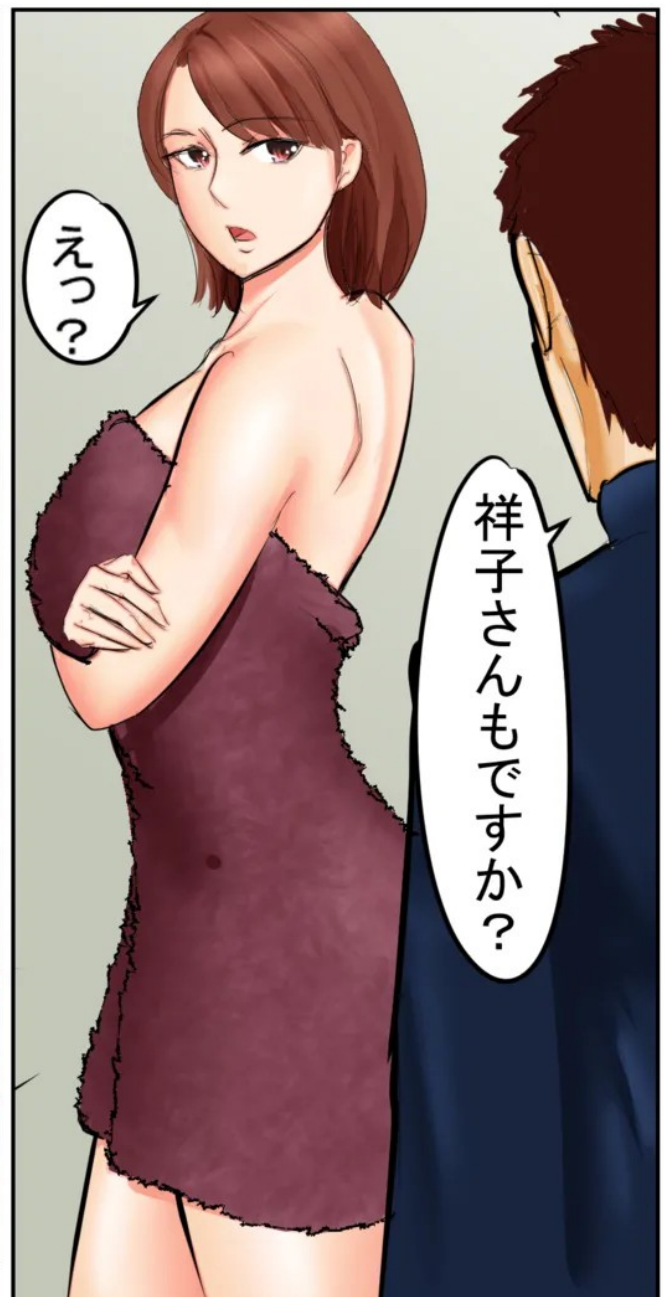


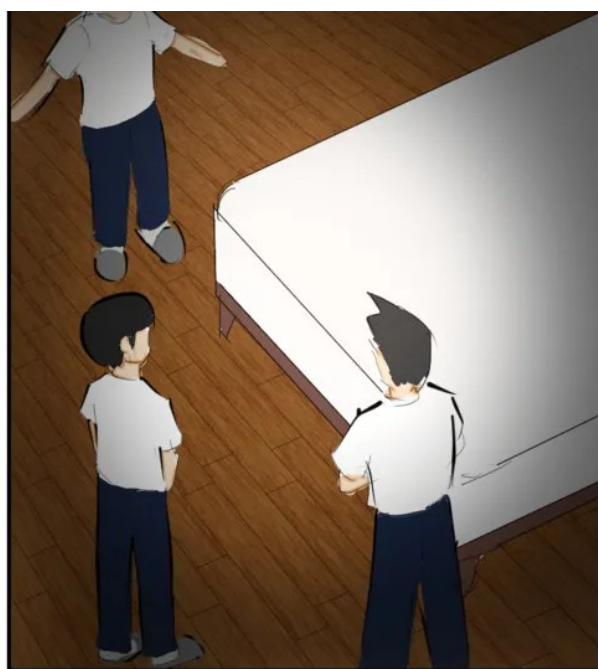


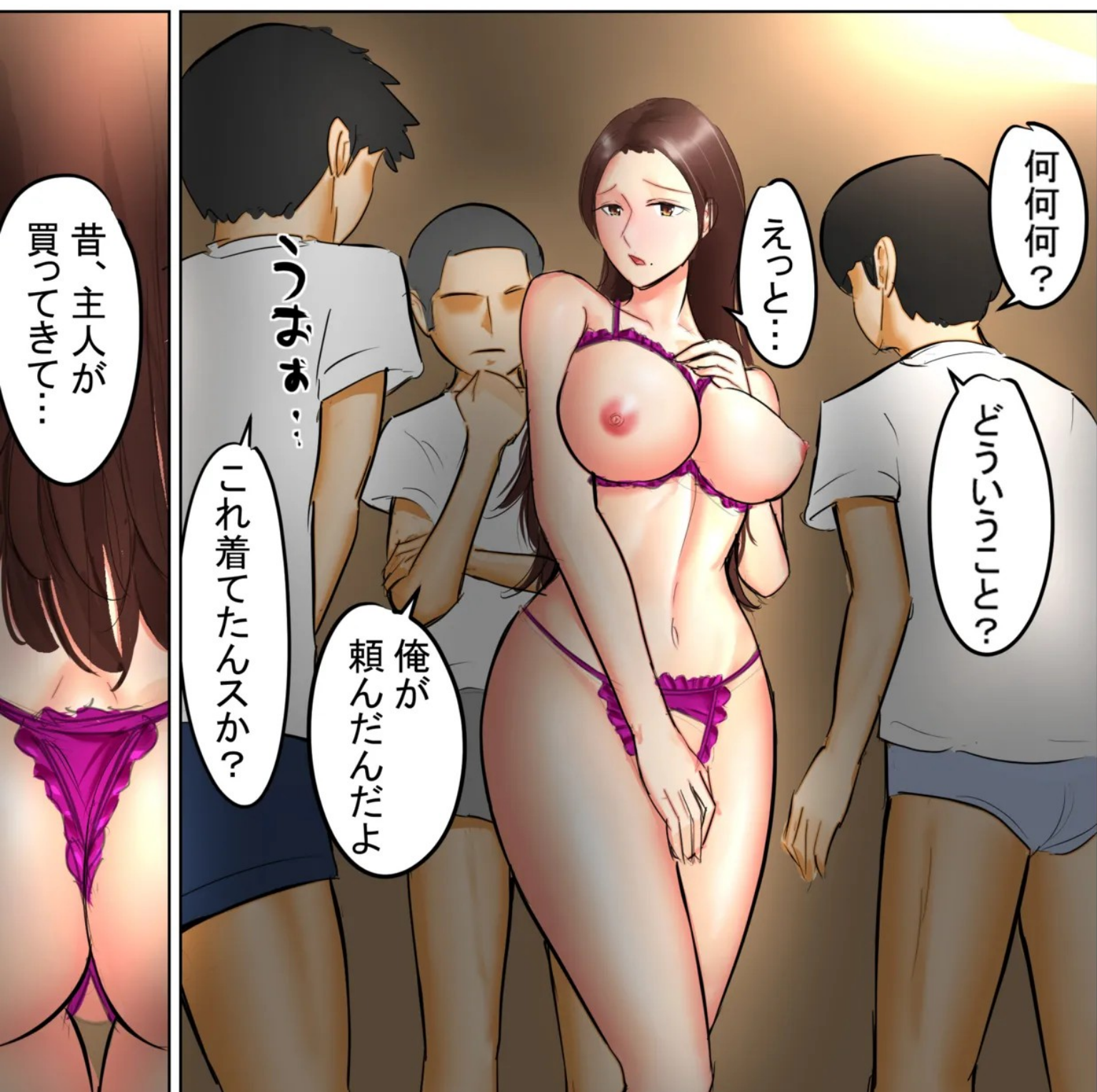














尻の感触
これだけで
イキそうだわ

ガ
ー
ガ
ー
ガ
ー



はあ
もう無理っ

はあ
いい匂い

ガ
ー
ガ
ー
ガ
ー

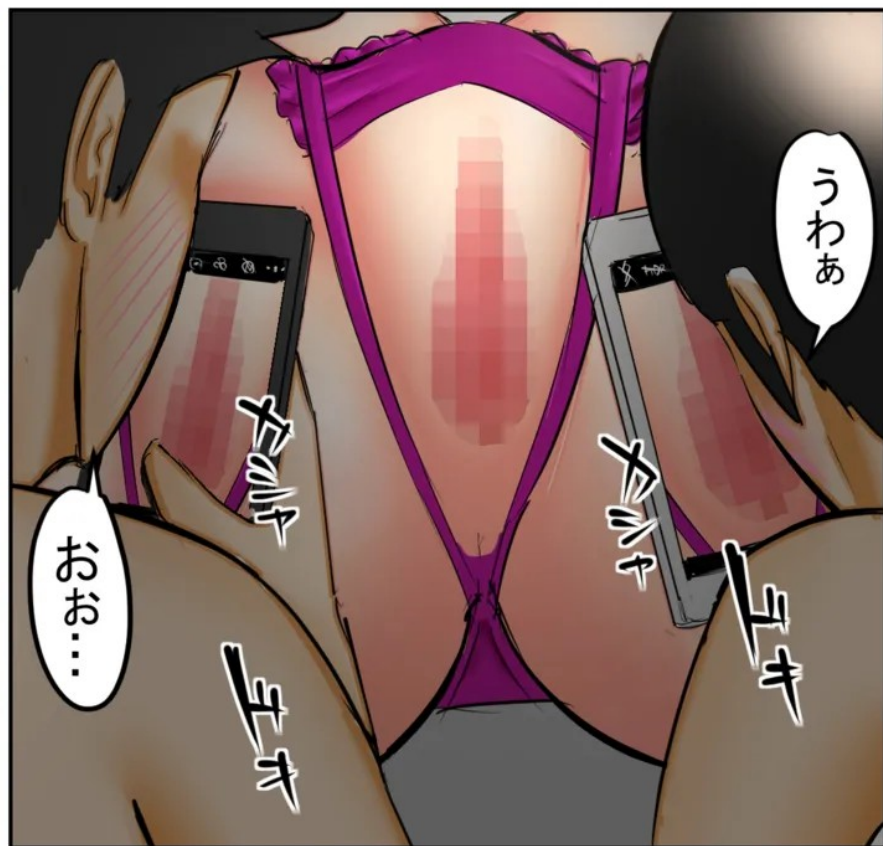
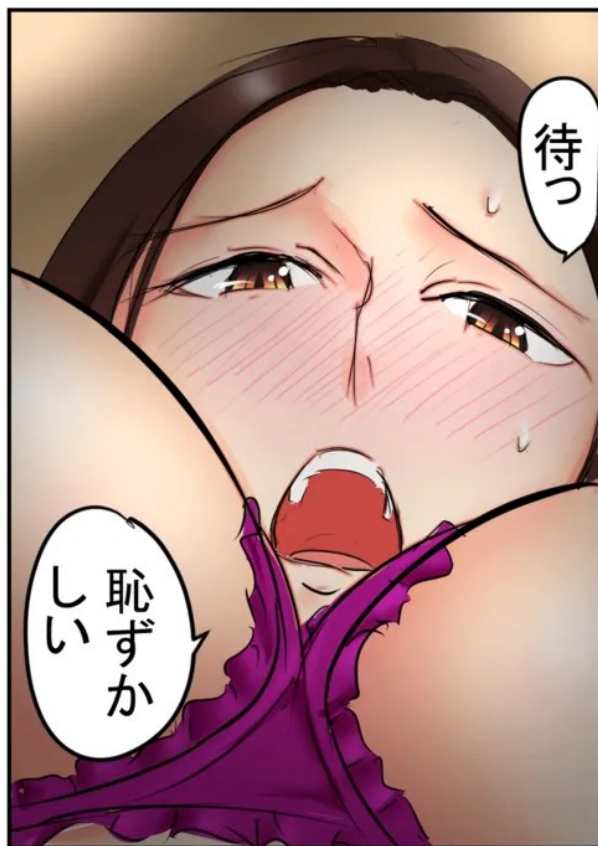


恥ずかしい

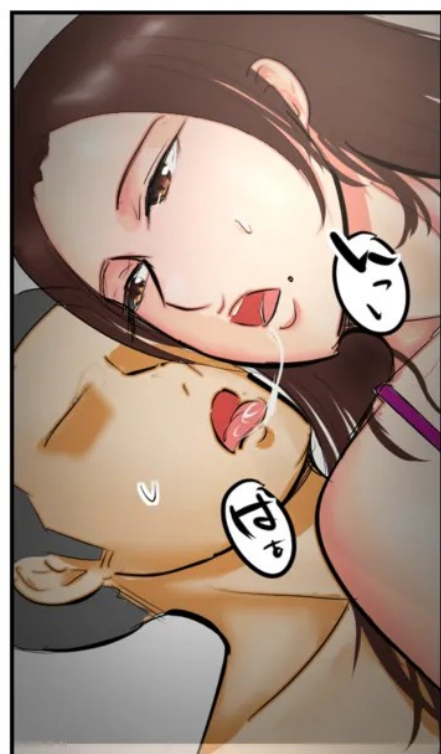
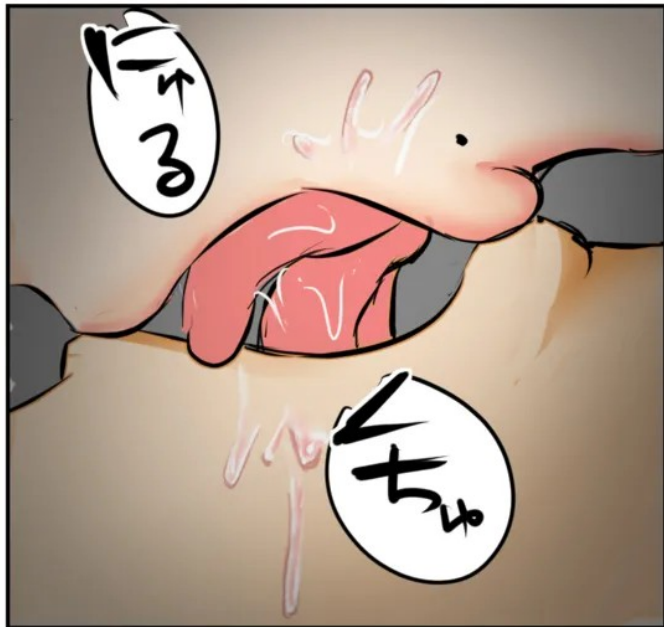


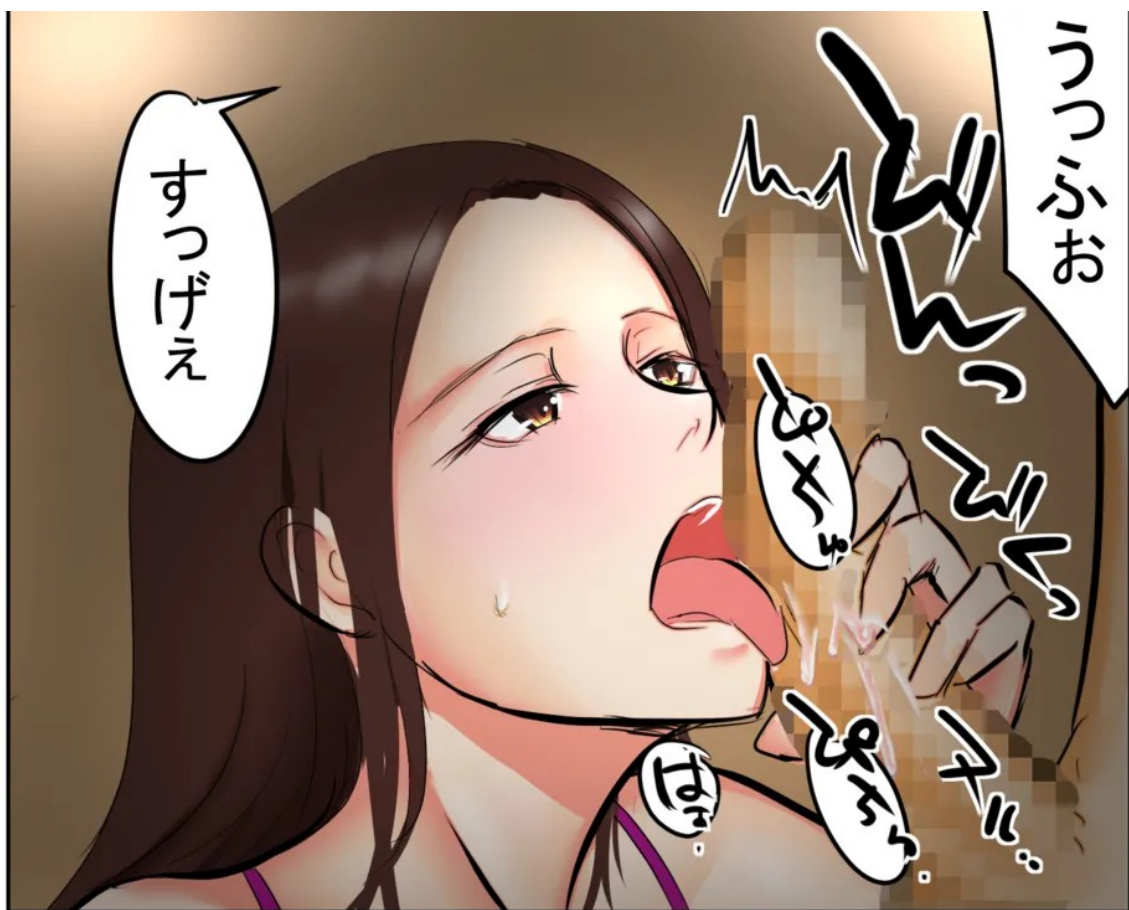
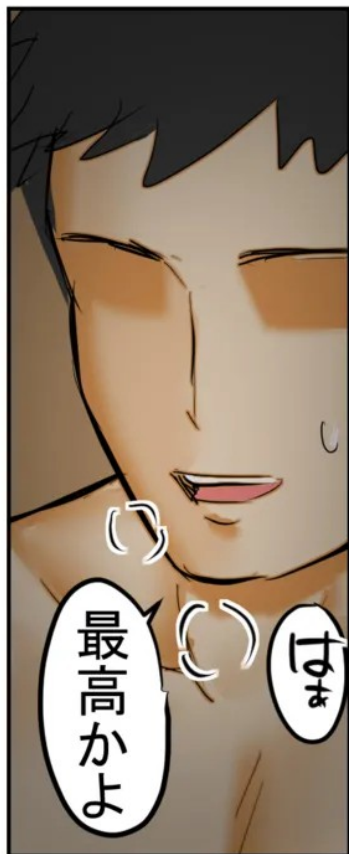
ちよつと…

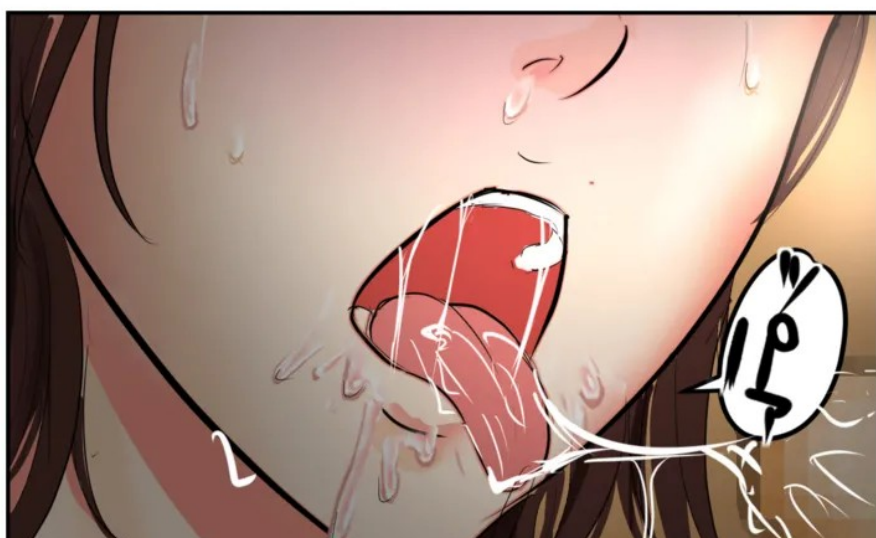
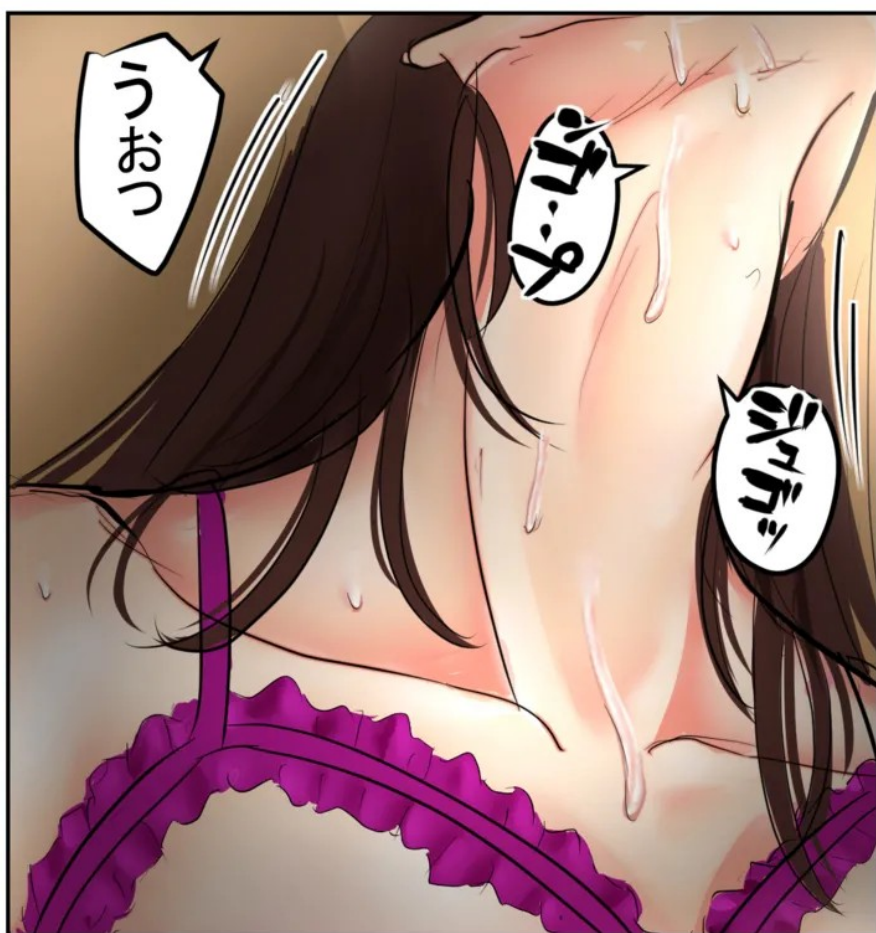
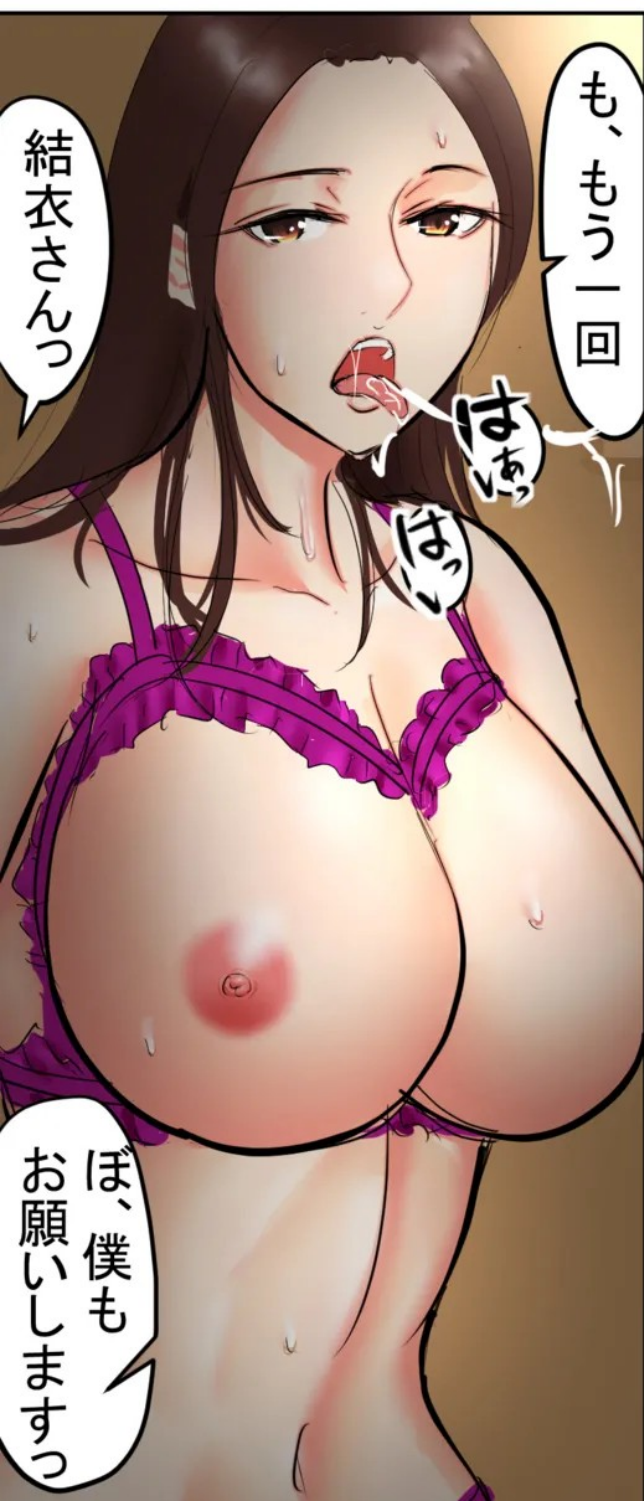
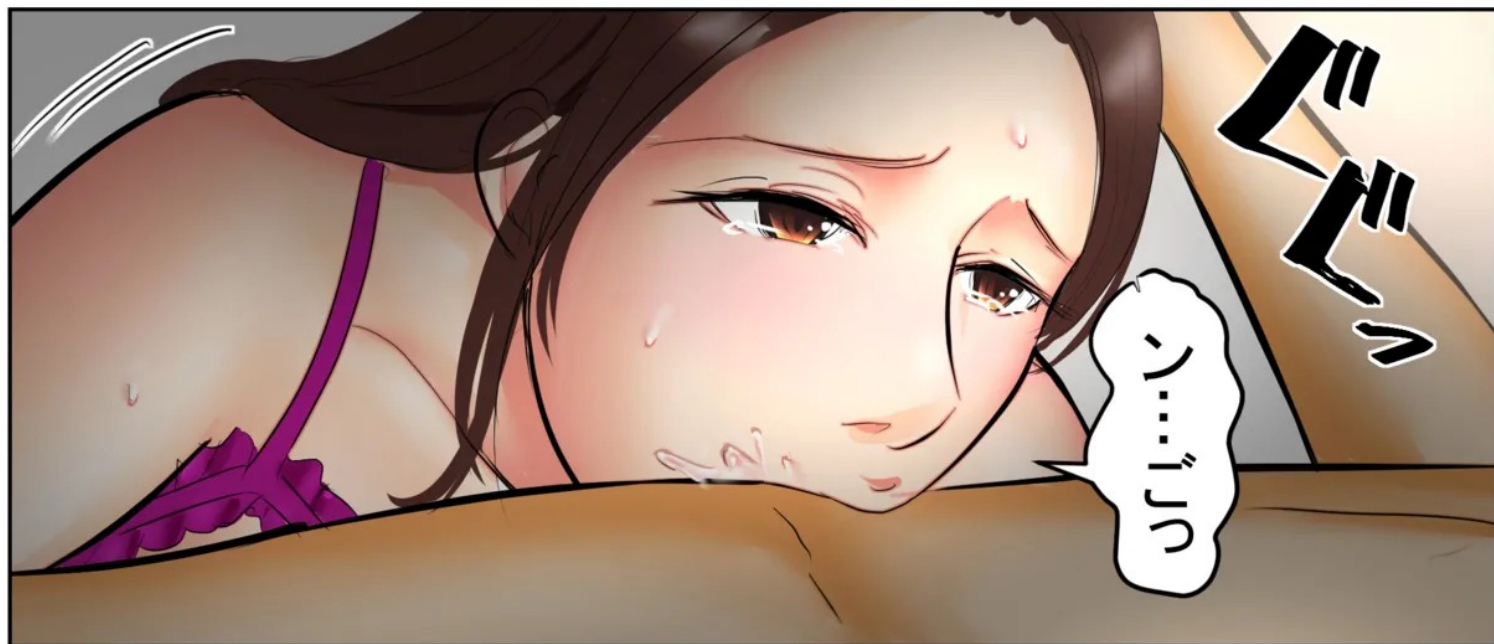
これ……
履いたままでも
できるんですよ











あつあつ
結衣さん

そこ

あつあつ
あつあつ
あつあつ

あつあつ

こんなことできんの
俺だけだから

はあ
結衣さんの髪...

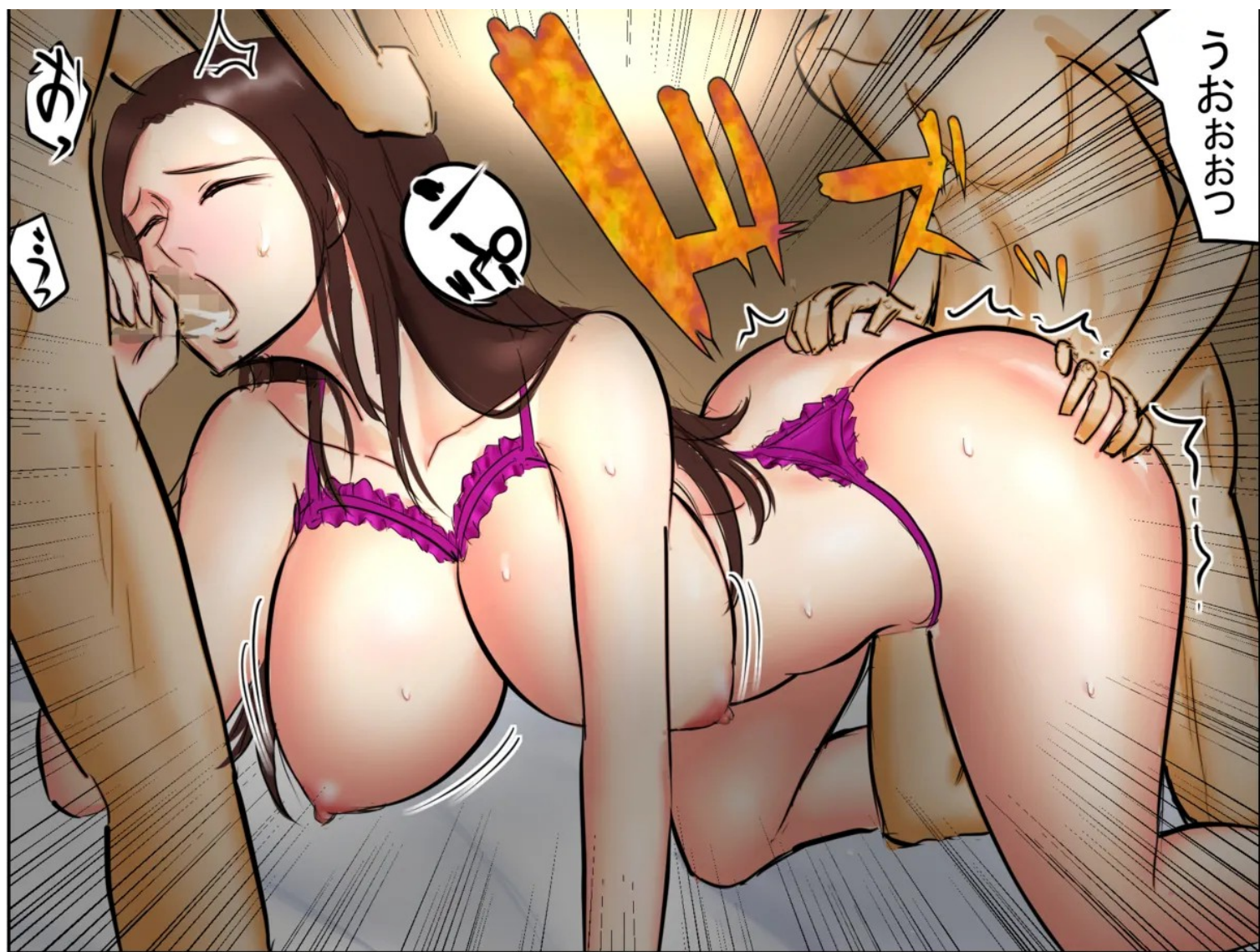
お前ら...

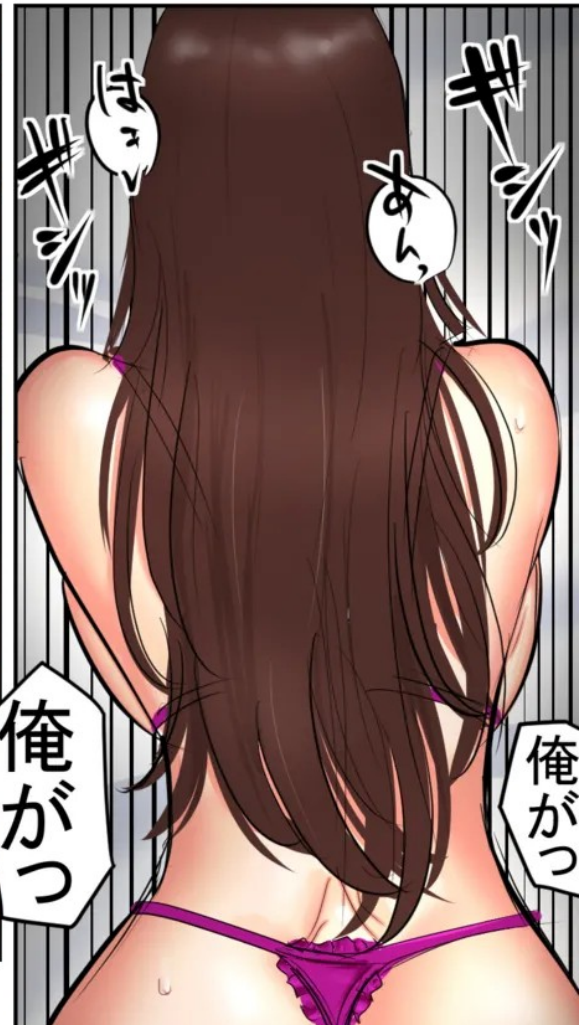
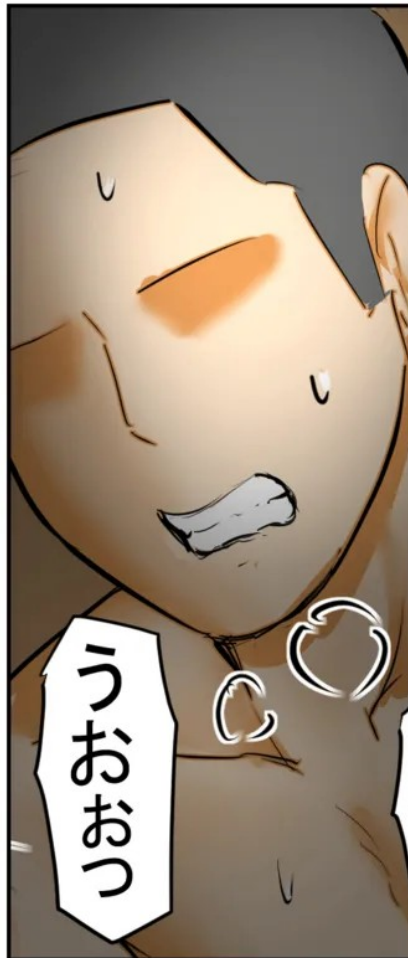
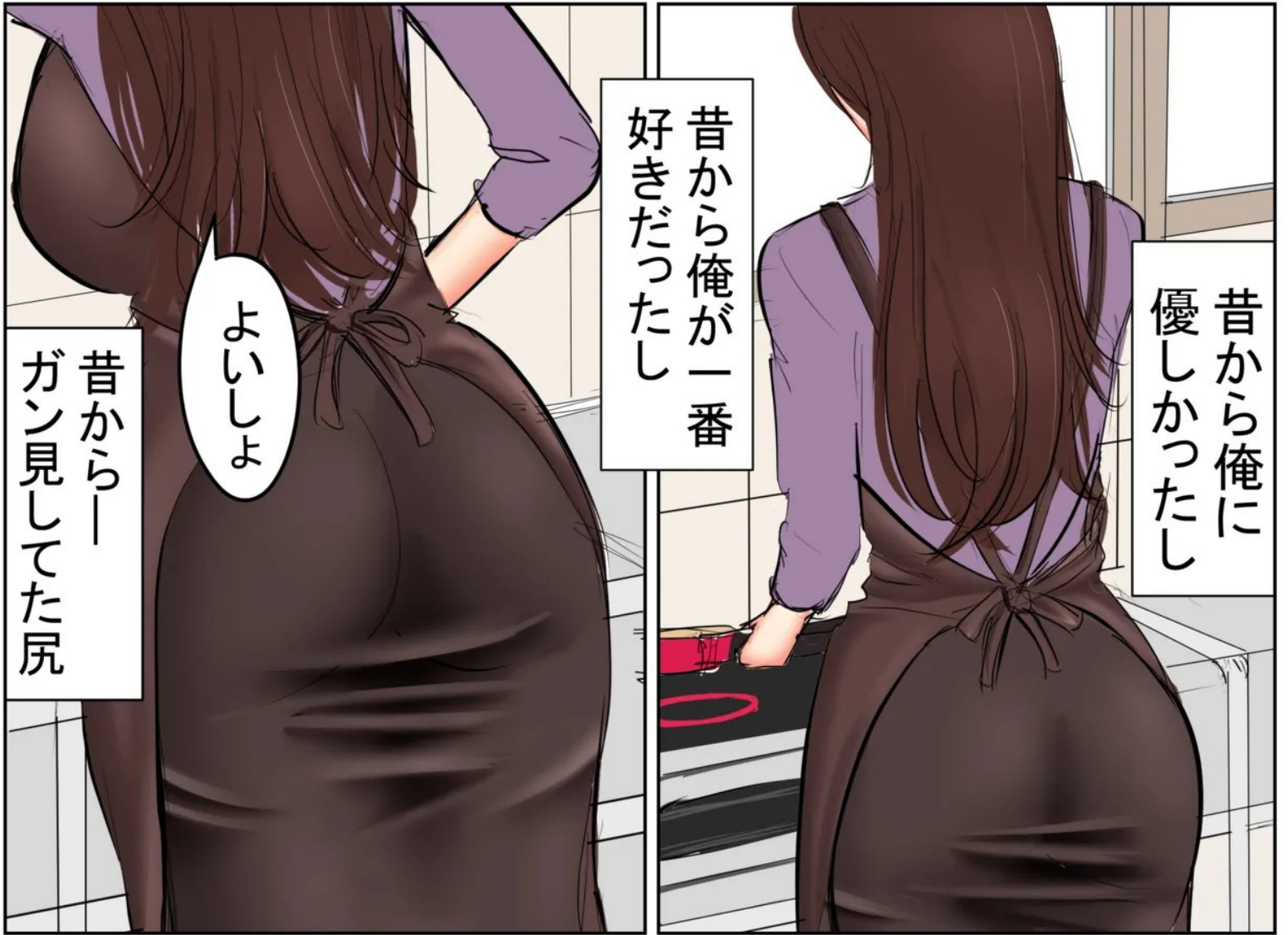
お前らなあ...



あつあつ
あつあつ
あつあつ

あつあつ
あつあつ
あつあつ







俺が一番
イカせたし

僕が先に
好きだったし

結衣さん——

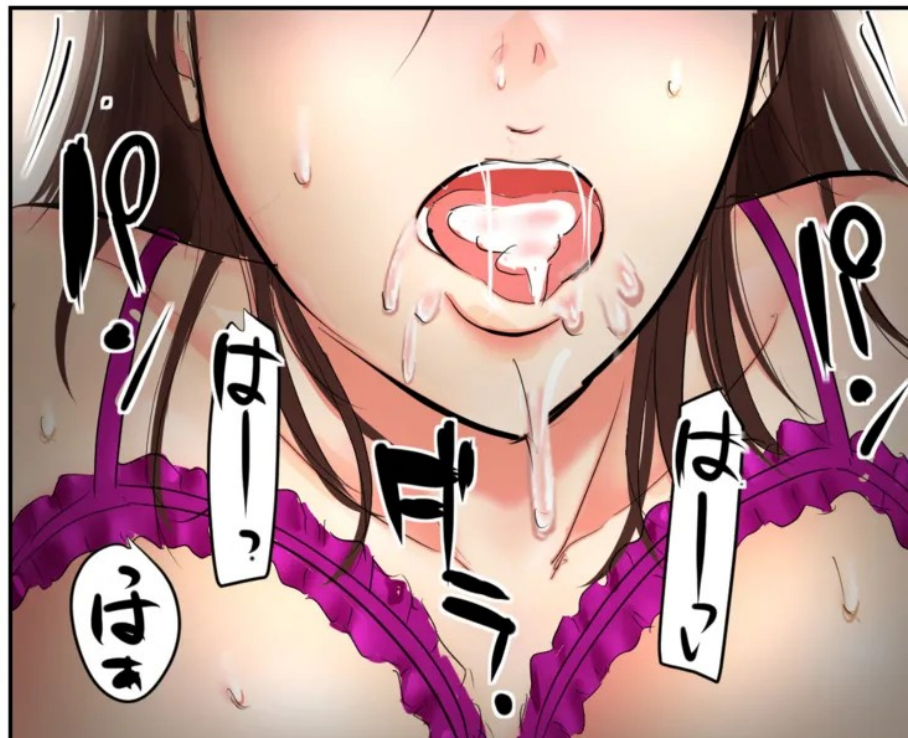
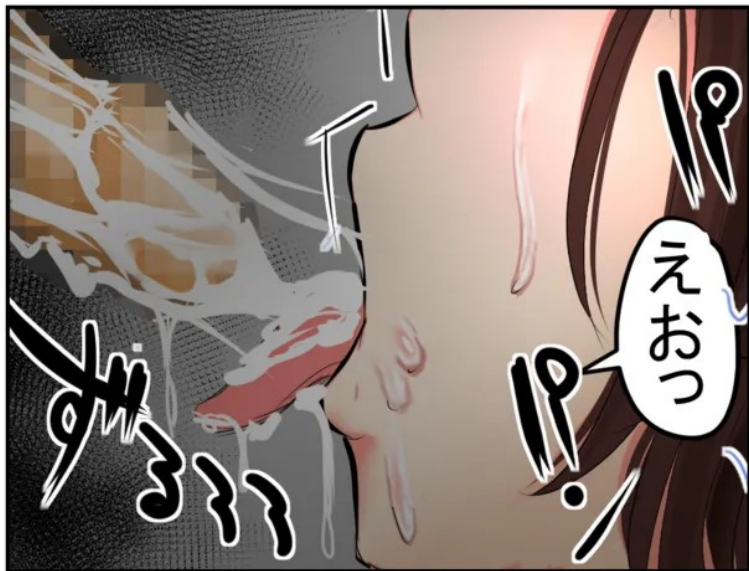
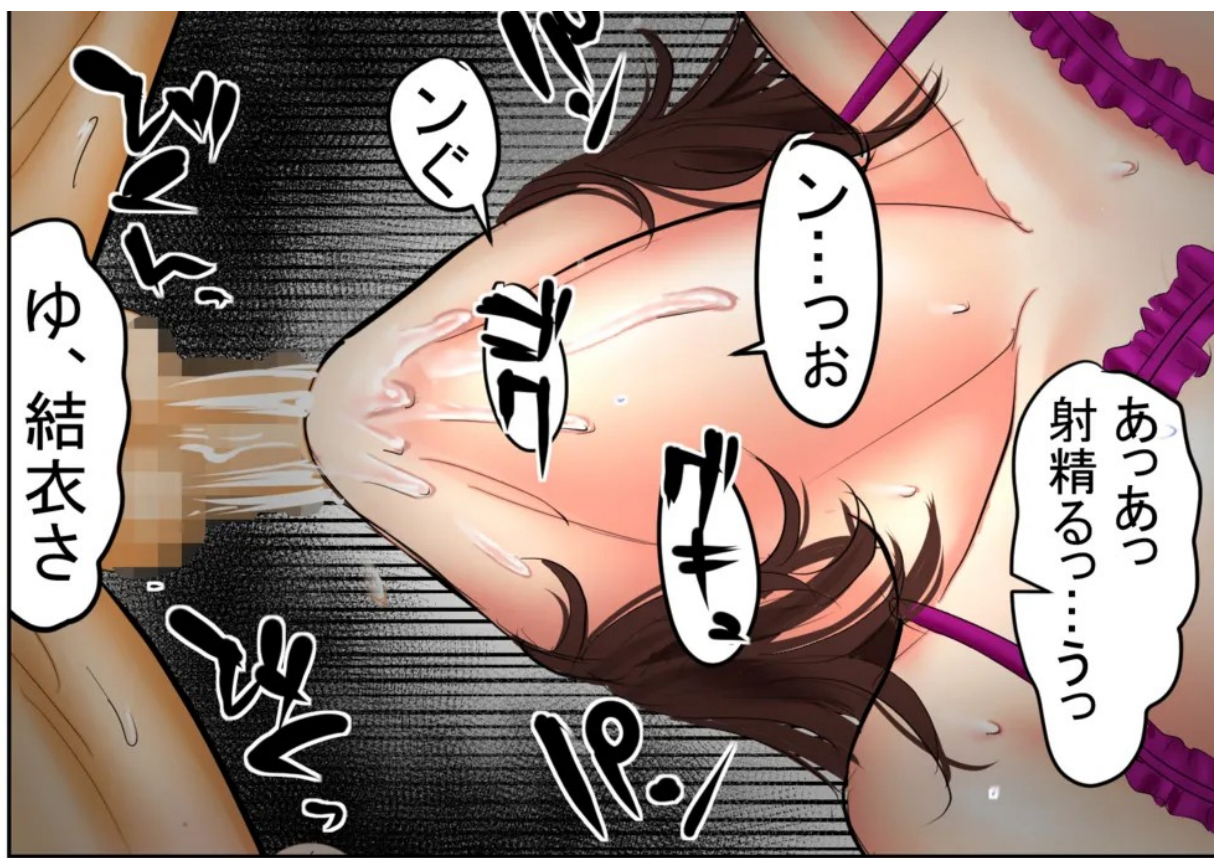
俺の方が
激しかった

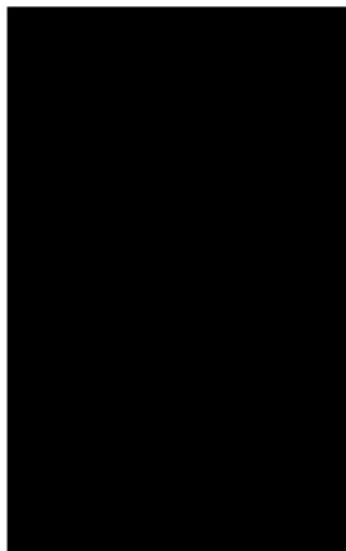
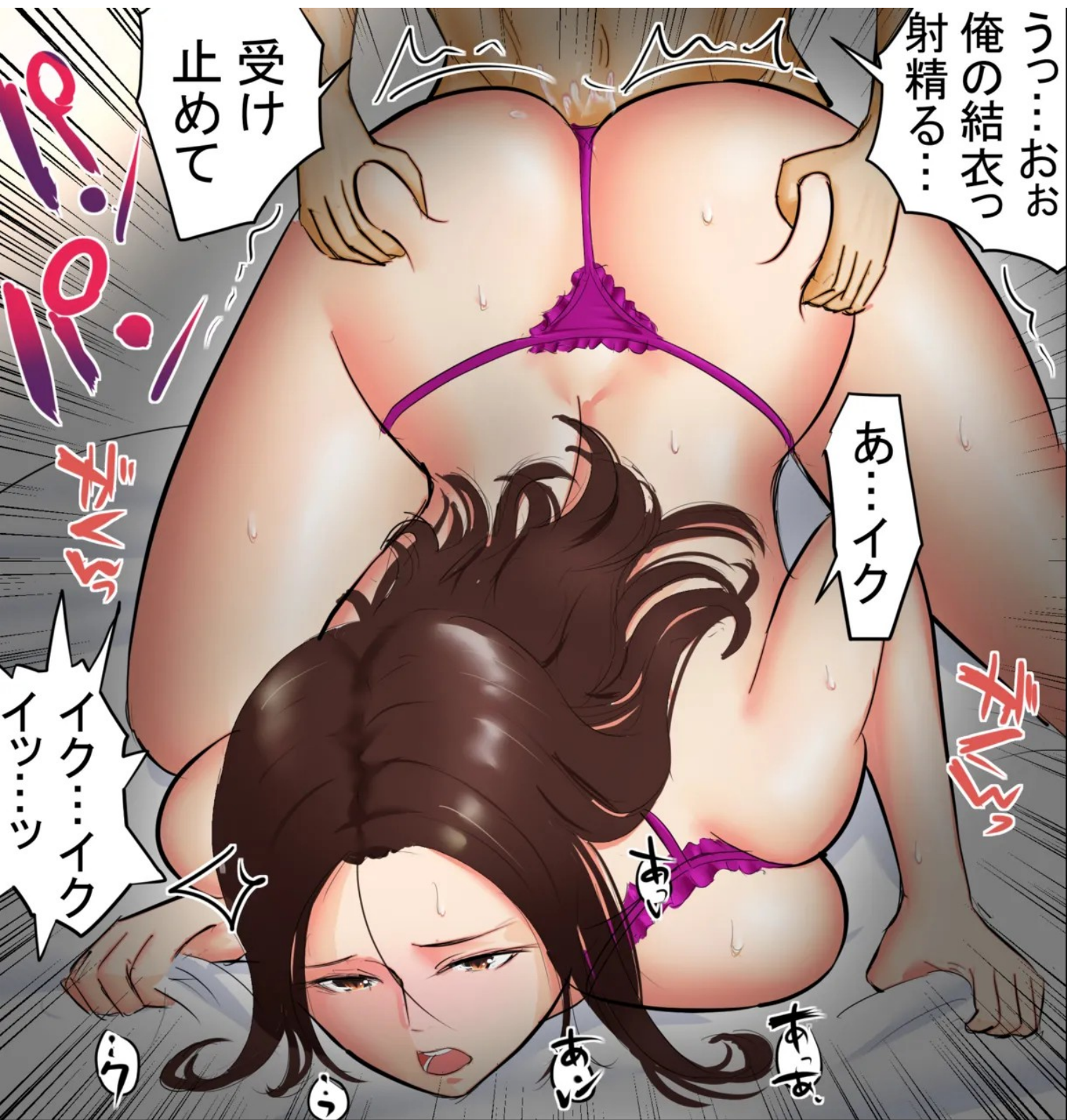


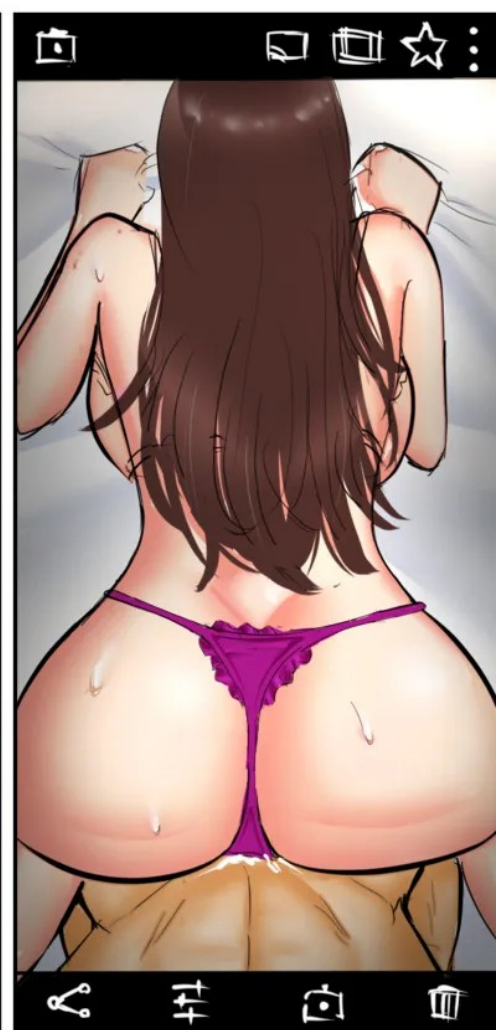
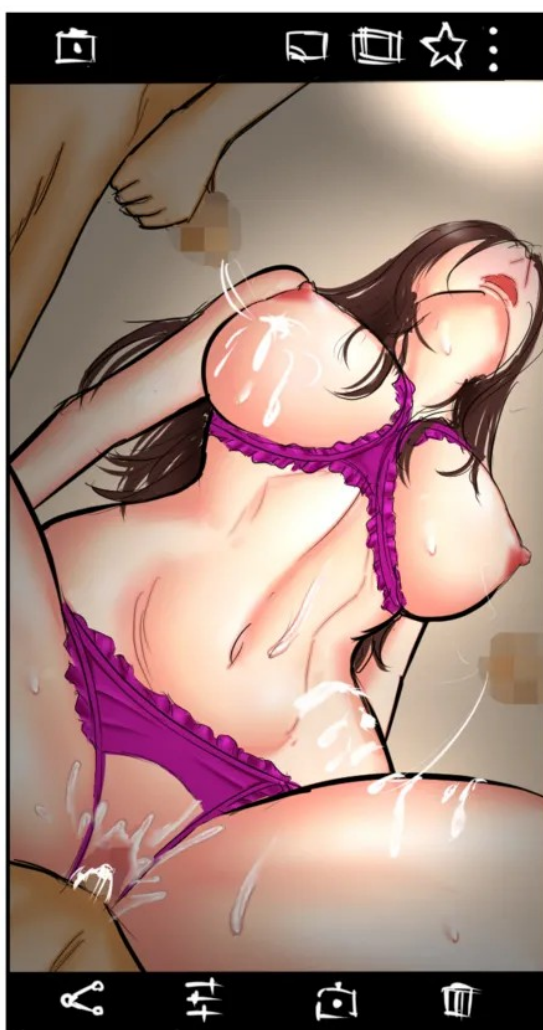
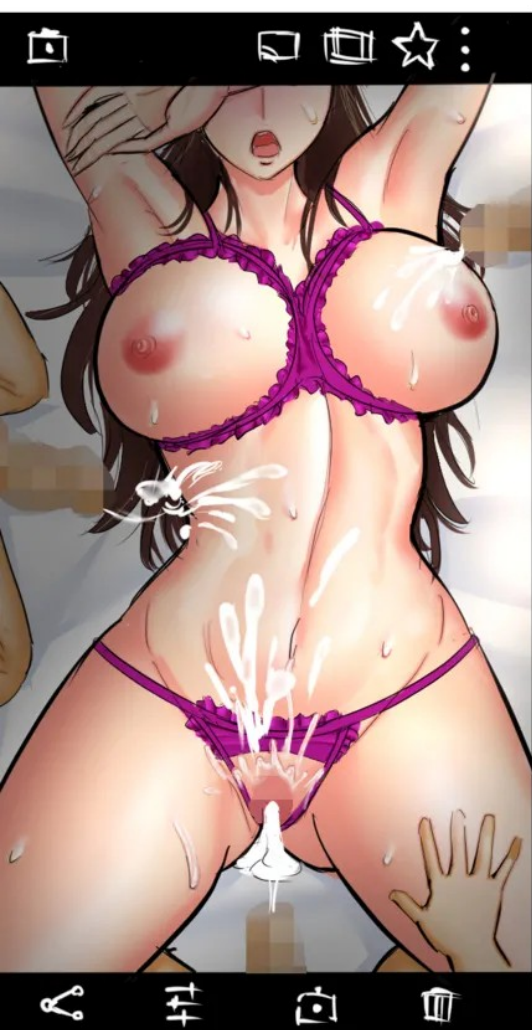
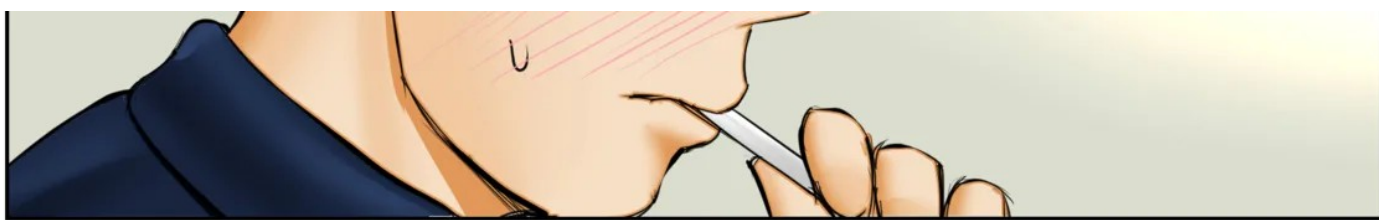
僕のを——

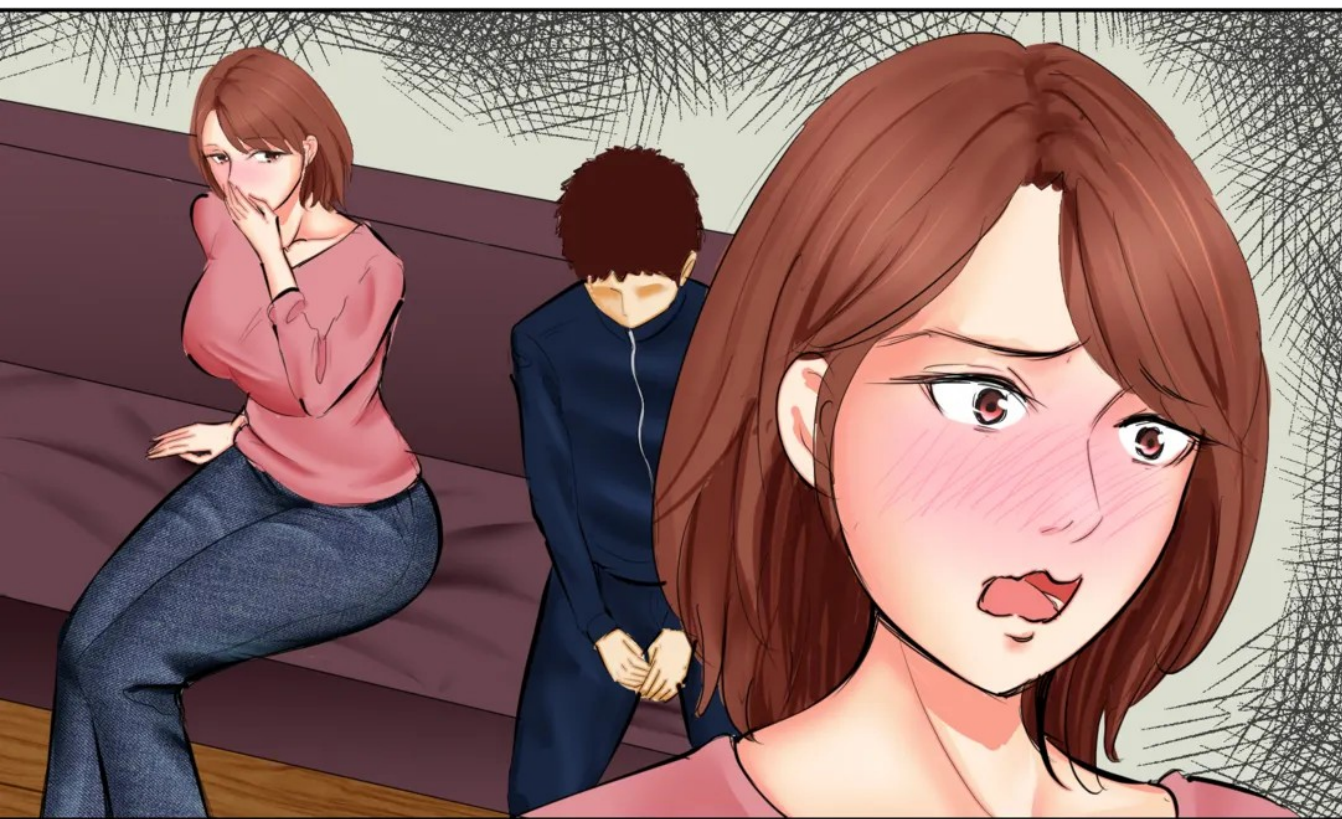


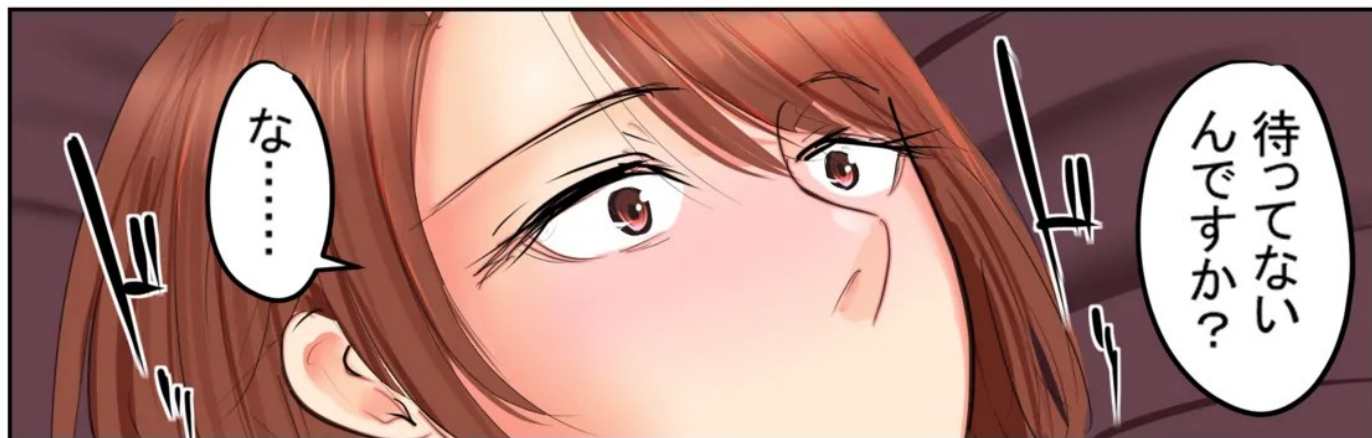
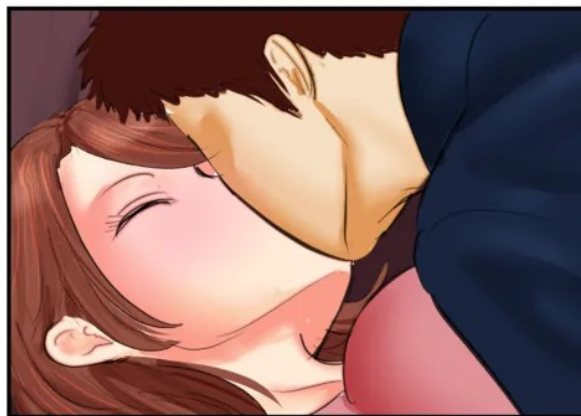
ああ結衣さん
いつも笑顔で優しい
結衣さんが——











あとがき

昔から変わらない考えがあります

あとがきは蛇足
描いたものが全て
読む人のノイズになるから
自分の存在は空気でいたい

じゃあ何故今あとがきを書いたのか

プロからアマまで簡単に割られて
検索したら販売ページよりも上にくる中で
正当に買ってくれる人には感謝しかない
これだけはどうしても書いておきたくなりました

それと他のサークルのやり方は自由だし
干渉する気はありませんが
自分の価値観では
買ってくれた人が損をした気持ちになるので
当サークルは今後も大幅な値引きセールはしません

それでは次回まで

2024年 6月 すぴか屋